

聖和女子学院高校と議員との意見交換会の要旨

○参加者 議員：山田議員、湊議員 学生：聖和女子学院高等学校2年生3名

○発表テーマ：長崎県における防災備蓄状況について

○意見交換会要旨

(湊議員)

今回発表していただいた南海トラフ地震について、国民の多くが犠牲者になるというか、影響を受ける大変大きな災害に目を向けて、しっかり対策をしてほしいことをしっかり理解しました。私達も、今日この意見交換の中でいろいろ出た意見をしっかり県に届けて、安心して暮らせる社会作りをしていきたいと思うので、どうぞよろしくお願いします。

(山田議員)

防災については、長崎県に防災基本条例というのがあります。県民の命を災害から守ることを目的に「みんなで取り組む災害に強い長崎県づくり条例」って言うんですけど、10年程前に私が総務委員長時代に議員提案条例で制定されました。

防災備蓄品の問題ですが、実はですね住民の避難ということは、基礎自治体、佐世保市とかそこに住んでる市町に役割が決まっていて、実は予算もですね、佐世保市さんでしっかりと確保して置く必要があるので、交付税措置を活用するなどに対応もできると思う。

(生徒)

県から、市の方にちゃんと防災備蓄をしましょうといった働きかけは行わないのか。

(山田議員)

県の担当課が、毎年備蓄状況の確認をされています。ただ、久しぶりに資料を確認したところ、流通備蓄をやっていない市町が数件あったので、県の担当部署へ再度市町へお願いをするよう私のほうから伝えておきました。

(山田議員)

災害が起きた時は、DVとか性被害とかそのような問題も出てきます。女性にはちゃんと仕切りをつけるといった工夫をするなど対応が必要になるので、皆さんの勉強の中にも加えていただければと思う。

(湊議員)

ざっくばらんとした質問ですが、例えば、どうやってこのテーマを選択したのか。

(生徒)

地震が来るのは怖いなと思って、皆で相談してこのテーマに決めました。

(山田議員)

防災の基本はですね、正しく恐れることって言われてるんですよ。

過剰に、変に怖がってはいけませんが、いつかは災害が起こるということを正しく恐れることが基本なので、起きた時のことを考えた対策を取っておく必要がある。

私は、過去の災害において東日本大震災などへ防災ボランティアに参加しました。皆さんの場合は、十分な安全が確保されてからになりますけど、災害現場のボランティアというのも、経験にしていだけたらいいかなと思う。

(山田議員)

皆さんと同じような世代でいうと、釜石市って岩手県にあるんですけど、自分たちの命は自分たちで守るってことを基本に、防災教育にすごく力を入れていて、津波が来たらとにかく避難をしるってことを教育してたので、生徒の命は助かりました。子どもたちが普段から災害に対する意識や防災教育をしっかり受けていたことの非常にいい事例だと思う。

長崎の場合、津波はなかなか想定しづらいですが、例えば、台風被害の時は、避難しても危ない場合もあるし、家にいることが一番安全なのか、できる対策は何かなど、いろいろな工夫や、その時々判断は必要になってくると思います。

(湊県議)

皆さんそれぞれ大切な人がいると思うので、災害に対する意識や対策についてしっかりと伝えていけば、その大切な人の周りの人にもどんどん広がっていくと思う。

また、ローリングストック、日常の中に食料備蓄を取り込むという考え方で、日常の中で自分の好きなものを備蓄の意味あいでもめに買っておいて、消費の際は賞味期限が古いものから使っていく方法も回転率が早いし、無駄も生じない家庭での防災備蓄になる。

(山田議員)

本日の高校生との交流事業に真っ先に手を挙げさせていただいたのは、母校であったことと、防災は、議員としても結構長く携わってきており重要性もよく分かっていたので参加をさせていただきました。

素晴らしい発表であったと思うし、生徒さんたちに不安を持たれることがないよう基礎自治体である各市町に対しての県からの働きかけをしたいと思ってます。

今日は本当にありがとうございました。お疲れ様でした。